

家庭科－1「家庭基礎」

事例1 衣生活のトラブルや失敗したことを出し合い、その解決方法を話し合う事例

1 単元名 豊かな衣生活をめざして

2 単元目標

- 被服の役割を理解し、被服の購入、管理、廃棄についての知識と技術を身に付けることができる。
- 自分の衣生活を振り返り、課題を発見し、学んだ知識と技術を活用してその解決方法について考えることができる。

3 単元計画

次 程	学 習 内 容
一次(2)	被服の機能と着装
二次(6)	被服材料と性能、被服管理と計画、衣生活と環境
三次(2)	衣生活の課題と解決方法(本時)

4 本時の目標

- 自分の衣生活の課題を発見することができるようにする。
- 衣生活の課題に対して、学んだ知識と技術を生かして解決することができるようにする。
- 自分の衣生活を主体的に営むことができるようにする。

5 本時(2時間分)の手立て

- 1 事前に、これまで経験した衣生活に関するトラブルや失敗したことを学習ノートに3つ以上記入してくるよう指示しておく。
- 2 個人で付箋に書いた衣生活に関するトラブルや失敗したことについて、ペアで説明し合う場を設ける。その後ペア活動を参考に思い出したトラブルや失敗したことを付箋に書く時間を設ける。
- 3 グループの中で自分の衣生活に関するトラブルや失敗したことを発表し合い、模造紙にKJ法を用いてまとめさせる。
- 4 学んだ知識と技術を生かしてトラブルや失敗したことに対する解決方法をグループで話し合い、模造紙にまとめさせる。
- 5 グループでまとめた内容をワールドカフェ方式で発表する場を設ける。

6 本単元で実施する言語活動の意図

「家庭基礎」の目標には、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力が必要であることが示されています。そこで衣生活領域の学習において、自分の生活の中から課題を見だし、学んだ知識や技術を生かして課題を解決させる場面で、言語活動を充実させた授業を仕組みました。友達のトラブルや失敗したことを知ることで自分の衣生活を改めて見直す機会にもなると考えました。またこれまで学んだ知識や技術を生かして解決方法を考えさせることで、実際の生活の場で活用できる「実践的な態度」につなげることがねらいです。

7 学習の流れ (50分間×2)

	学習活動・学習内容	授業の実際
導入	<p>めあて 「将来の自分のために、衣生活のトラブルや失敗したことを出し合い、その解決方法を話し合おう。」</p>	
展 開	<p>■これまで自分が経験したトラブルや失敗したことを付箋に記入し、ペアで内容を確認し合う。(写真1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジーンズのサイズが合わなかった。 ・組合せがうまくいかなかった。 ・洗濯で伸びた。縮んだ。 ・自分に似合わなかった。 ・ボタンがすぐ取れた。 <p style="text-align: right;">評価規準①</p>	 <p>(写真1) ペアで衣生活のトラブルや失敗したことを説明している(ペア活動)様子</p>
	<p>言語活動①【記述】</p> <p style="text-align: right;">10分</p>	
	<p>■ KJ法を用いてトラブルや失敗したことを分類整理する。(写真2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・購入時のトラブル ・洗濯時のトラブル ・保管時のトラブル 等 	 <p>(写真2) グループで衣生活のトラブルや失敗したことを発表し、KJ法を用いて分類整理している様子</p>
	<p>言語活動②【話し合う活動】</p> <p style="text-align: right;">15分</p>	
開	<p>■学んだ知識や技術を生かして解決方法を話し合う。(写真3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・購入時サイズ表示を必ず確認する。 ・洗濯は、取扱絵表示に従う。 <p style="text-align: right;">評価規準②</p>	 <p>(写真3) 学習ノートをもとに課題を解決しようとしている様子</p>
	<p>言語活動③【話し合う活動】</p> <p style="text-align: right;">10分</p>	
まとめ	<p>■模造紙にまとめる。</p> <p>■次時の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの衣生活のトラブルや失敗したこと、その解決方法を模造紙にまとめ、発表する。 	

	学習活動・学習内容	授業の実際
導入	<p>めあて 「将来の自分のために、衣生活のトラブルや失敗したことを出し合い、その解決方法を話し合おう。」</p>	
展	<p>■ワールドカフェ方式での発表の仕方について説明を聞く。</p> <p>①グループで話し合った内容を確認する。 ②「ホスト」をテーブルに残して、他の人は他のテーブルに移動(同じグループにならない)する。 ③「ホスト」は、①でどんな話があったかを、そのテーブルに来てくれた人と共有し、それを聞いた人も意見を述べて、探究する。 ④元のグループに戻って他グループの発表内容を伝える。</p>	
	<p>■ワールドカフェ方式で発表を行う。(写真4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちのグループは、トラブルや失敗したことを、洗濯、サイズ、肌ざわりなど4つに分類整理しました。 ・トラブルには〇〇がありました。 ・解決方法として□□と考えました。 	<p>(資料1) グループでまとめた模造紙</p>
開	<p>言語活動④【話し合う活動】 20分</p>	
まとめ	<p>■今後、自分の衣生活において、気を付けていきたいことを学習プリントにまとめる。</p> <p>■教師のまとめを聞く。</p> <p>評価規準③</p>	<p>(写真4) ワールドカフェ方式で発表している様子</p>

評価規準①

自分の衣生活を見つめ直し、衣生活のトラブルや失敗したことを3つ以上書くことができる。【思考・判断・表現】〈付箋〉

評価規準②

学んだ知識や技術を生かし、衣生活のトラブルや失敗したことの解決方法を具体的に考えることができる。【思考・判断・表現】〈付箋・模造紙〉

評価規準③

被服の購入時、洗濯時、保管時のうち2つの場面から、気を付けていきたいことをまとめることができる。【思考・判断・表現】〈学習プリント〉

家庭科 事例1のまとめ

授業者の感想

被服の購入時や洗濯、保管などに関するトラブルや失敗したことが予想以上に出てきました。それらに対する解決方法を考えるときも、グループ内で意見を活発に出し合う姿が見られました。また、他のグループの意見を聞くことで、より多くの事例を共有することができたと考えます。教師が知識を伝えるだけの授業よりも、意見を出し合いながら学習していく授業のほうが生徒の記憶に残りやすく、実生活に結びつく授業になると考えます。

本活動を単元の最後に位置付けたので、購入時のトラブルの解決方法で、具体的な表示名を答えることのできる生徒もいました。しかし、「表示を見る」と書いただけの生徒が多く、学習した内容が定着していないと感じました。このような活動を行うことで、学習内容の再確認ができると思いました。また学習の導入の段階で興味・関心を高めるためにも有効ではないでしょうか。

KJ法やワールドカフェ方式の話し合いをさせて、生徒達は活発に意見交換を行う力をもっていると感じました。ただ、その方法に慣れていないので、戸惑ったり、グループを作るのに時間がかかったりします。各単元の導入やまとめの時などに、積極的にこの方法を取り入れていけば、生徒たちもこの方法に慣れ、より有意義な意見交換ができると考えます。

生徒の学習の様子（学習プリント）

(資料1) 今後の衣生活において、どのようなことに気を付けていきたいか

無駄になるような買い方をしないようにしようと思いました。
値段、デザインなどの面では、他の店を見たり、自分の今持っている服を
分かっておくという事に気をつけなければいけないと思いました。
洗い方は取り扱い絵表示や注意書きをみないといいないと思いました。

(資料2) 2時間目終了時の感想

自分の失敗談を話けたり友達の話も聞くことでなるほどなあと思ったり
共感し合えたところがあったです。
また、解決策も考えることができたのでこれから自分が失敗しないように
活かしていきたいです。

成果と課題

生徒同士で意見交換をさせたことで、資料2のように新しい発見をしたり、今後の生活に生かそうとしたりする姿が見られたことは大きな成果といえるでしょう。

衣生活でのトラブルや失敗したことについて自分の経験を出させ、KJ法で分類整理させたところ、被服の購入場面や洗濯やアイロンがけ、保管時など被服を管理する場面などに分類していました。これは衣生活の学習内容にあたります。今回はこの活動を単元の終わりで行いましたが、単元の最初に行えば、衣生活領域の学習への意義（自分たちの衣生活の課題を解決するための学習である）を理解させ、興味・関心を高めることにつながると考えます。

家庭科－2(家庭基礎)

事例2 現代の家族・家庭の特徴を理解し、自分の生活設計について考え発表する事例

1 単元名 人生と家族

2 単元目標

- 各ライフステージの特徴と課題について理解し、家族や家庭生活の在り方について考えることができる。
- 現代のライフサイクルの特徴を理解し、これからの自分の生活設計を考えることができる。

3 単元計画

次 程	学 習 内 容
一次(1)	様々な家族
二次(4)	人の一生と法律、家事労働と職業労働
三次(2)	ライフスタイルの変化と生活設計(本時)

4 本時の目標

- 日本人のライフサイクル(生活周期)の変化の特徴を説明できるようにする。
- ライフサイクルの変化の理由を説明できるようにする。
- ライフサイクルの変化やその変化の理由を理解し、これからの自分の生活設計を考えることができるようにする。

5 本時(2時間分)の手立て

- 1 1920年と2004年のライフサイクルについて比較できるグラフを提示する。
- 2 出産期間、子ども扶養期間、夫婦二人の期間をグラフに色づけさせ、日本人のライフサイクルの特徴に気付くことができるようにする。
- 3 日本人のライフサイクルが変化したことを理解させた後、これからの生活設計である6つのテーマについて自分の考えをまとめさせる。
- 4 サイコロの目(6つのテーマを記入したもの)のテーマについて、グループの中で自分の考えを発表させる。

6 本単元で実施する言語活動の意図

家庭科の教科の目標は「男女が協力して主体的に家族や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」ことです。少子高齢化が進んでいる現在において、生涯を見通した自分の生活設計を考える必要があります。そこで現在のライフサイクルの特徴を理解させ、これからの自分の生活設計について考えさせるために、言語活動を充実させた授業を仕組みました。他者と話し合うことで理解が深まり、自分の生活設計について意見交換することで様々な考えに触れ、自分の生活設計を見つめ直すことにつながると考えました。

7 学習の流れ (50分間×2)

	学習活動・学習内容	授業の実際		
導入	<p>めあて 「日本人のライフサイクルはどう変化したのか考えよう。」</p>			
展開	<p>■グラフの説明を聞く。(写真1) ・1920年と2004年の男女のライフスタイル ・出産期間、子ども扶養期間等の名称</p> <p>■学習プリント(資料1)のグラフに色づけする。</p> <p>■ライフサイクルの変化とその理由を付箋に記入する。(写真2) 評価規準①</p> <table border="1"> <tr> <td>言語活動①【論述】</td> <td>5分</td> </tr> </table>	言語活動①【論述】	5分	 <p>(写真1) ライフサイクルのグラフの見方を説明している様子</p>
	言語活動①【論述】	5分		
	<p>■自分の考えをグループで発表し、変化の理由についてグループで話し合う。(写真3) ・結婚が遅くなっている。(高学歴化) ・出産期間が短くなっている。(少子化) 評価規準②</p> <table border="1"> <tr> <td>言語活動②【話し合う活動】</td> <td>15分</td> </tr> </table>	言語活動②【話し合う活動】	15分	 <p>(写真2) 自分の考えを付箋に記入している様子</p>
言語活動②【話し合う活動】	15分			
<p>■これからの自分の生活設計について、6つのテーマで自分の考えを学習プリント(資料2)にまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">6つのテーマ</p> <p>①結婚は何歳頃したいか。その理由 ②結婚相手に望むこと。その理由 ③(女子)結婚後、仕事を続けるか。 (男子)妻の仕事に対する考えは。 ④子どもは何人ほしいか。その理由 ⑤どんな老後を送りたいか。その理由 ⑥ライフサイクルの変化に対して、どんな感想をもったか。</p> </div>	 <p>(写真3) 自分の考えをグループで発表している様子</p>			
まとめ	<p>■次時の学習について知る。 ・6つのテーマで意見交換を行う。</p>	<p>○学習プリントを拡大した用紙を準備します。 ○6つのテーマについて次時までにとまとめるように指示します。</p>		

	学習活動・学習内容	授業の実際
導入	<p>めあて 「日本人のライフサイクルの変化についてまとめ、将来の自分の生活設計について意見交換を行おう。」</p>	
展開	<p>■ライフサイクルの変化についてグループの考えを全体に発表する。(写真4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚が遅くなっている。 (高学歴化、女性の社会進出) ・出産期間が短くなっている。(少子化) ・子どもの教育期間が長くなっている。 (高学歴化している) <p>■6つのテーマで意見交換の仕方について説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイコロを順番に振り、出たテーマについて自分の意見を発表する。 ・2巡目で同じテーマの時は、もう一度サイコロを振る。 	 <p>(写真4) 全体に発表している様子 ○生徒の意見を板書し、ライフサイクルの変化についてまとめていきます。</p>
閉	<p>■これからの自分の生活設計について6つのテーマで意見交換を行う。(写真5)</p> <p style="text-align: right;">評価規準③</p> <p>言語活動③【討論】 15分</p>	 <p>(写真5) サイコロの出たテーマについて意見交換している様子 ○グループの構成メンバーは男女混合が望ましい。</p>
まとめ	<p>■6つのテーマで意見交換を行った感想とライフサイクルの変化を学んだ感想を書き、発表する。</p>	

評価規準①

ライフサイクルの変化とその理由について、2つ以上自分の考えを書くことができる。
【思考・判断・表現】〈付箋〉

評価規準②

自分の考えをグループで発表したり、ライフサイクルの変化の理由についてのグループとしての考えを、家庭科で学習したことと関連づけてまとめることができる。
【思考・判断・表現】〈付箋・模造紙〉

評価規準③

ライフサイクルの変化とその理由をもとに、これからの自分の生活設計について、自分の考えを述べることができる。
【思考・判断・表現】〈学習プリント〉

家庭科 事例2のまとめ

授業者の感想

現在のライフサイクルの特徴を話し合う活動では、付箋やグラフの拡大版を用意したことで、スムーズに意見をまとめることができたようです。変化した理由については、様々な意見が出ていました。グループの代表者に発表するように指示したところ、約半数のグループで手が挙がりました。グループの中で意見交換が意欲的に行われたためだと考えます。各グループの発表内容を教師が的確にまとめて板書し(写真6)、要点を生徒に理解させることで、次の段階である6つのテーマの意見交換が生きてくると思います。生徒の意見を大切にしながら、要点をまとめる力が教師に必要なだと改めて感じました。

6つのテーマでの意見交換では、「結婚後、女性が仕事を続けるかどうか」について、女子は「働きたい」、男子は「どちらでもいい」「話し合って決める」など性別役割分業観が改善されていると感じました。しかし、「結婚相手に望むこと」では、男子は「自分は家事ができないから、家事のできる人を」など、生活の自立という意識は低く、今後の家庭科の授業の在り方を考えさせられました。「どのような老後を送りたいか」については、予想ができない生徒も多く、高齢者に対する理解について授業した後に本活動を行った方がよいかと思っています。

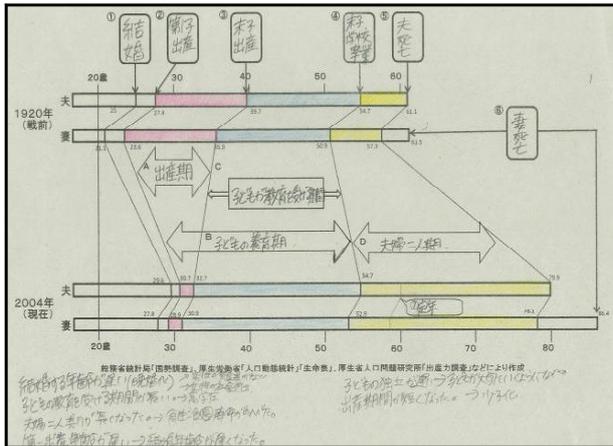
これまでの生活設計の授業では、個人で書かせて終わることが多かったのですが、意見交換をさせることで、自分では気付かない生き方、異性の考え方などを知ることができ、今後の人生設計において参考になったのではないかと考えます。

座学では、教師が知識を伝えるだけの授業になりがちですが、上記のような授業形態を取り入れていくことが家庭科では重要だと感じました。グループ活動を行わせる場合、どのグループも意見交換が活発に行われるように、メンバー構成を熟考するのはもちろん、司会者のマニュアルを作成して配付するなどの手立てを考えて、授業を改善していきたいと思っています。



(写真6) 生徒の意見を板書でまとめている様子

生徒の学習の様子 (学習プリント)



(資料1) 色づけされた学習プリント

(資料2) 6つのテーマをまとめた → 学習プリント

- 1 結婚は何歳ごろしたいか? その理由
28歳ごろ
30歳を越えると周りに心配されるし、28歳くらいだったら、落ちついて大人の考えを持っていて、後悔しなそう。
- 2 結婚相手に望むことは? その理由
自分の気持ちを理解してくれる、一緒にいて楽しい、いざという時はしっかりしている
自分の気持ちも分かってくれないで、一緒に暮らしていると、不満がたまるし、やっぱり楽しいと自分も思っていていいんですけど、いざという時は、男としてちゃんと自分の考えが通るとか、いざという時に頼りになるとか思う。
- 3 (女子) 結婚後仕事を続けるか? (男子) 結婚後の妻の仕事に対する考えは? その理由
私は、絶対に仕事は辞めたくない
せめて就いた仕事を結婚という理由で失いたくない!
- 4 子どもは何人ほしい? その理由
女の子2人 男の子と1人1人にかけて時間が足りなくなると思うので、でも一人は男の子、自分は、兄弟が大切だと知っているから兄弟がいた方がいいと思うので、2人。
- 5 どんな老後を送りたいか? その理由
健康で有意義な毎日を送りたい
人生に悔いがないように、やりたいことをやて、楽しく過ごしたい
あと、病気に無縁な毎日を過ごしたい。
- 6 ライフサイクルの変化に対してどんな感想を持ったか?
夫婦二人期 & 妻一人の時間が長く多いので、そこに不安を持った。

他人との意見交換は、自分か思いつかなくて、見つけられなかった所を見つけていた、自分と同じ所なのに、気づいていること、理由が違ったりと、視点の違いと、思考の違いが面白かった。

(資料3) 1時間目終了時の感想

人によって捉え方がちがひ、似たような意見も、違った意見や、自分では気づかなかったところの意見など、様々な意見があり、とても参考になった、おもしろかった。楽しく意見交流ができて、良かったです。

(資料4) 2時間目終了時の感想

成果と課題

一方的に教師が説明する授業より、資料3のような感想が多く見られたことから、ライフサイクルの特徴についての理解が深まったと考えます。また、自分の生活設計についての意見交換もサイコロを振るというゲーム的要素を取り入れたことで、自分の意見を言わなければならない状況を生み出し、全員が自分の意見を述べる事ができていました。意見交換したことで、資料4のように、他者の意見を参考にこれからの生活設計を考えたいという感想が多く見られ、今回の言語活動が有効だったと考えます。しかし、6つのテーマについて自分の考えをまとめさせるとき、既習の内容を生かした思考が不十分でした。これまでの学習を想起させるような発問や指示を行う必要があったと考えます。

言語活動を充実させた授業を行う場合、教師が言語活動を充実させる目的を明確にもち、話し合いの方法など板書等を利用して的確に指示を与える必要があると再確認しました。

言語活動を充実させるための工夫

実践事例1について

① 個人内で思考→ペア活動→グループ

生徒達に自分の考えを表出させるためには、まず個人で考える時間を確保することが必要です。しかしせっかく自分の考えをまとめても、自分の考えに自信がないために発表することができない生徒が多くいます。ペア活動を行うことで、他の人も同じような考えをもっているのだと自信をもたせたり、ヒントを得たりすることができ、その後のグループ活動が活発に行われます。

② ICTの活用

KJ法やワールドカフェ方式での話し合いの方法を生徒に説明する場合、ICTを活用することが有効です。

(授業者の感想より)

言語活動を充実させるには、教師の的確な指示と授業への十分な準備が必要であると痛感しました。その手立てとして、プレゼンテーションソフトを用いてスライドを提示しながら活動の指示を行うことで、生徒への周知を徹底することができると感じました。

実践事例2について

① 教材(付箋、模造紙、サイコロ)の準備

ア 付箋……1枚の付箋には、1つの考えを記入させます。生徒一人当たり5枚程配付します。記入にはサインペンを使用させます。

(授業者の感想より)

生徒の意見を出させまとめるために、付箋とサインペンの活用は大変有効だと思いました。一人でいくつ意見を出すのか生徒への指示も徹底することができますし、一人がいくつ意見を出したのか視覚的にすぐ確認できるからです。また、サインペンで書かせた文字は読み取りやすく、生徒一人一人の意見を大事にすることにつながると感じました。

イ 模造紙……今回は学習プリント(結婚や出産、期間等は記入済み)を拡大したものを各グループ分準備しました。

ウ サイコロ…6つのテーマの意見交換を活発に行わせるため、サイコロの目にテーマを貼り付けたものを準備しました。

② 言語活動を充実させた授業を行う時期

6つのテーマについての意見交換を行う時期を十分考える必要があります。単元の最初に6つのテーマを提示しておき、家庭の役割や男女で協力して家庭を築くことの大切さについて学習毎にまとめさせておくと、意見に深まりがみられるのではないかと思います。また、1年間家庭科を学んだ後に行えば、家庭科の学習を生かした意見交換ができるのではないのでしょうか。